

一帯ゆるき

(明治四十年寮歌)

田中義麿君 作歌
高松正信君 作曲

一、一帯ゆるき石狩の

源遠く霞罩め

五彩を染むる夕照は
手稻の夏の栄にして

そこに無限の恩寵あり
是吾校の在る処

二、胡沙吹く風に秋闌けて

黄葉散りしく牧場千里

満野の吹雪叱咤する

エルムの姿壮なれや

そこに無限の偉力あり

是吾寮の在る処

三、偲へば遠き三十年の

榛莽あしたの日を蔽ひ

ゆふべの月に熊吼ゆる

北海の野に鋤入れて

偉人が植ゑし桜花

薫は高し千万古

四、海を距てて南の

空の彼方を眺むれば

古人の道は跡もなく

文明の徳は尚成らず

溟濛天に漲りて

帰鳥夕に彷徨いぬ

五、魍々として風狂ひ

北海の潮黒むとき

電光凄く駛りては

鬼啾々の声すなり

破邪の剣を右手にして

六、岩間に咽ぶ溪流も

明日は黄河に波うたむ

蟄竜遂に雲を呼び

鳳雛やがて時をえて

扶揺に搏つて騰りなば

魍魎遂に影もなし